



Dainichiseika

2024年3月期 決算説明会

彩りの、その先へ。

今日の未知は、未来への道

大日精化工業株式会社

2024年6月

■ サマリー	P3
■ 2024年3月期 連結決算	
・ 連結損益計算書	P4
・ 連結営業利益の増減要因	P5
・ セグメント別概況	
・ カラー&ファンクショナル プロダクト	P6
・ ポリマー&コーティング マテリアル	P7
・ グラフィック&プリンティング マテリアル	P8
・ 連結貸借対照表	P9
・ 連結キャッシュ・フロー計算書	P10
■ 2025年3月期 業績予想	
・ 連結損益計算書	P11
・ 連結営業利益の増減要因	P12
・ セグメント別概況	P13
■ 株主還元	P14
■ 参考資料	P15

新ブランドメッセージについて

彩りの、その先へ。
今日の未知は、未来への道

2023年10月に新ブランドメッセージを公表いたしました。

新ブランドメッセージ「彩りの、その先へ。」は、大日精化グループの原点である「彩り」を基礎に、「その先」にある、あらゆる可能性にむかって力強く、そして着実に前進していく前向きな姿勢を表しています。

また、サブメッセージの「今日の未知は、未来への道」は、企業理念にも位置づけた「新しいこと」に挑戦し「未来」を切り開いていく私たちのロードマップを表しています。

本メッセージは、全社員参加による公募と選定により、自社グループの行く先を「自分ごと」として考えるプロセスの中から生まれました。



サマリー

2024年3月期実績

		前期比
売上高	1,198億円	△21億円 △1.8%
営業利益	45億円	+19億円 +72.7%

- 自動車向けは、下期以降回復
- 液晶ディスプレイ向けは、上期回復も下期に再び調整
- 販売価格の改定が進み営業利益は増益

2025年3月期予想

		前期比
売上高	1,230億円	+31億円 +2.6%
営業利益	52億円	+6億円 +14.3%

- 自動車向け好調、液晶ディスプレイ向け緩やかに回復
- 労務費等の経費は増加見通し
- 東南アジア等の海外子会社が好調見通し
- 特別利益に川口製造事業所譲渡益77億円計上予定

株主還元

	2024年3月期	前期比
年間配当金 (うち中間)	110円 (40円)	+30円
自己株式取得	28億円	

- 期末配当金70円(うち特別配当30円)
- 川口製造事業所譲渡益に伴う株主還元として、2024年3月期から4期間にわたり、每期30円の特別配当を実施
- 2023年8月に自己株式28億円取得



連結損益計算書

売上高 | 下期以降、自動車向け回復、液晶ディスプレイ向けは期初から回復も下期に再び調整局面へ

営業利益 | 数量減も販売価格の改定、費用減(労務費・償却費)により増益

親会社株主に帰属する当期純利益 | 特別利益に政策保有株式売却益23億円、特別損失に減損損失22億円を計上

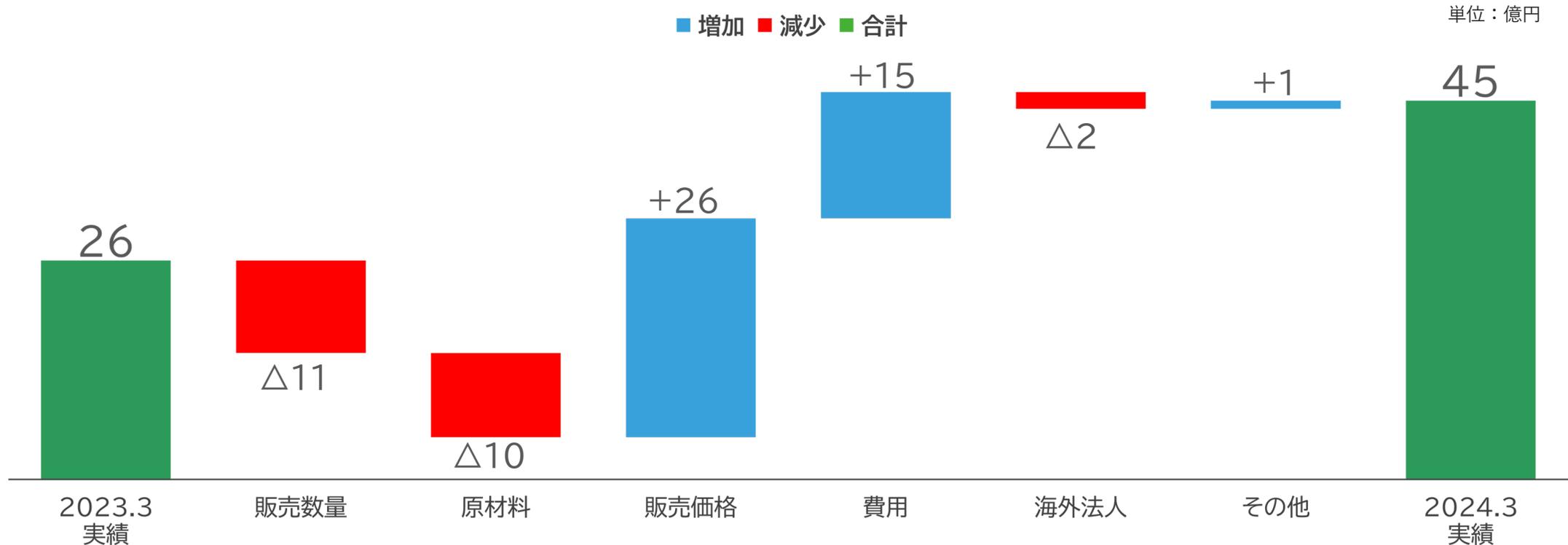
単位: 億円・切捨	2023年3月期実績	2024年3月期実績	増減	増減率
売上高*1	1,220	1,198	△21	△1.8%
営業利益	26	45	+19	+72.7%
経常利益	33	50	+16	+48.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	20	36	+16	+82.3%
EBITDA*2	82	97	+15	+18.3%
研究開発費	29	30	+0	+2.0%
海外売上高比率	27.2%	24.6%	△2.6	-
1株当たり当期純利益	108.58円	207.95円	+99.37円	-
為替レート	\$134.77円 €140.00円	\$143.34円 €156.74円	8.57円 円安 16.74円 円安	
ナフサ価格	76,625円	69,100円	△7,525円	

*1 「収益認識会計基準」適用により、売上高に含まれる有償受給材料を売上原価と相殺表示している金額 2023年3月期 472億円 2024年3月期 410億円

*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

連結営業利益の増減要因(前期・当期実績比較)

- 販売数量** | 自動車向け好調、液晶パネル向け上期好調も下期調整、物価高による消費低迷を受け包装・建材向けが低調
- 原材料・販売価格** | 原材料価格高止まり、販売価格には2023年3月期以前の交渉妥結分含む
- 費用** | 労務費及び減価償却費の減少
- 海外法人** | インドネシア子会社は、販売価格改定等により採算改善・中国華南地区子会社は、家電OA機器向けが低調により減益



セグメント別概況(カラー&ファンクショナル プロダクト)

Color & Functional Products

顔料及び顔料の2次加工製品

情報・電子業界、輸送機器業界向けを中心に付加価値の高い製品をグローバルに展開

戦略製品

2024.3実績コメント

インクジェット用顔料・分散液

海外の新テーマの立ち上げが遅延も、国内は堅調な動きが継続

カラーフィルター用顔料

下期は若干数量減も、通期ではサプライチェーンの在庫消化に伴い好調に推移

自動車用コンパウンド・着色剤

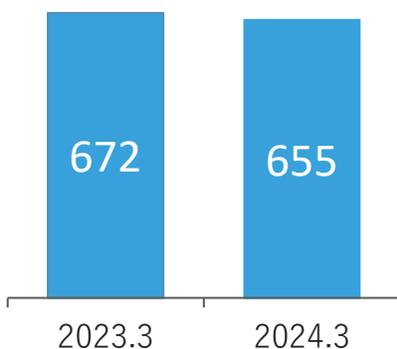
中国経済の低迷、能登地震による減産の影響を若干受けたが、自動車生産の持ち直しにより回復

機能性材料

化粧品材料は、一部で新規採用もあり、今後は技術優位性の獲得と生産プロセスの最適化に注力

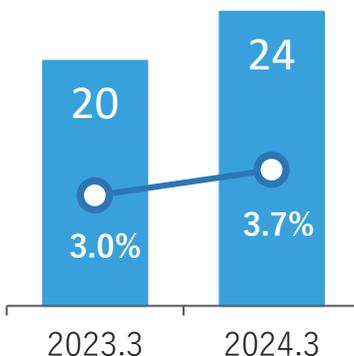
売上高

単位:億円



営業利益・営業利益率

単位:億円



設備投資・研究開発費

単位:億円

	2023.3	2024.3
EBITDA*1	49	52
研究開発費	15	15
設備投資額*2	20	27

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

*2 資産取得額

セグメント別概況(ポリマー&コーティング マテリアル)

Polymer & Coating Materials

合成樹脂及び特殊コーティング剤

ウレタン樹脂の幅広い品揃えを活かした拡販戦略、特徴のある独自性の高い製品の開発及び展開

戦略製品

2024.3実績 コメント

高耐久性ウレタン樹脂

自動車は北米向けが好調で、表面処理剤が伸長。アパレル向けは、一部で需要低迷の影響を受けたが、概ね堅調に推移

環境対応型ウレタン樹脂

サステナビリティ製品である水性の表面処理剤が日本、中国、米国で伸長

耐熱性高機能樹脂

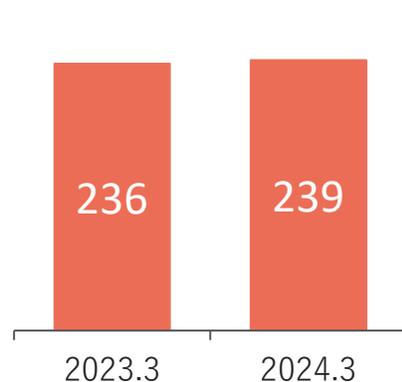
一部で計画が遅延も、高機能化が進むスマートフォン向けは堅調に推移

情報・電子業界向けコート剤

サプライチェーンの在庫消化に伴い期初より好調も、第4四半期は市況低迷により低調に推移

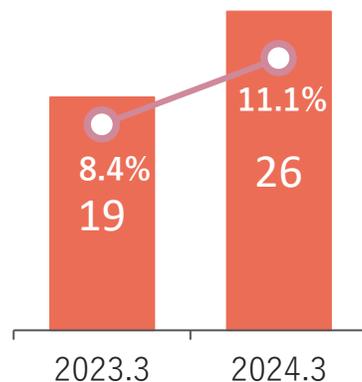
売上高

単位:億円



営業利益・営業利益率

単位:億円



設備投資・研究開発費

単位:億円

	2023.3	2024.3
EBITDA*1	33	40
研究開発費	9	10
設備投資額*2	6	13

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

*2 資産取得額

セグメント別概況(グラフィック&プリンティング マテリアル)

Graphic & Printing Materials

パッケージ用及び広告出版用インキ

国内は強みのある製品と成長が見込める分野に注力、海外は積極的な拡販策で収益を改善

戦略製品

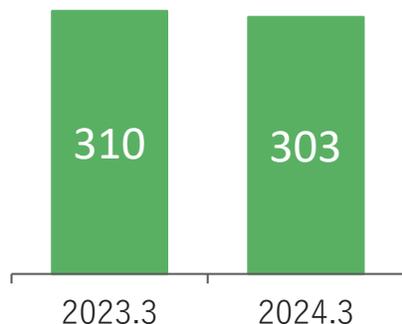
2024.3実績 コメント

ラベル用インキ、水性フレキシソ
成長分野への拡販
アジア向けインキ

ラベル市場向けは、ラベル面積の拡大もあり概ね堅調に推移、水性フレキシソインキもオムツ向けが堅調
情報・電子向けはスマートフォン用が中心、中国向けが前期は低調も今期は回復
価格競争が厳しく数量減も、販売価格の適正化が進み増益を達成

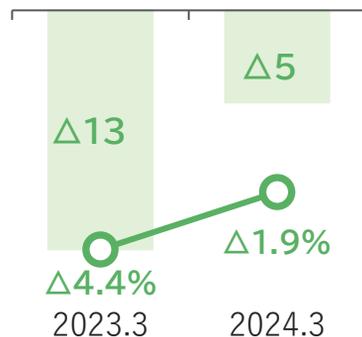
売上高

単位:億円



営業利益・営業利益率

単位:億円



設備投資・研究開発費

単位:億円

	2023.3	2024.3
EBITDA*1	△1	4
研究開発費	4	4
設備投資額*2	15	6

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
*2 資産取得額



連結貸借対照表

資産 | 総資産増加・期末休日により「受取手形及び売掛金」が増加・「有形固定資産」は減損損失計上により減少
政策保有株式売却進むも株価上昇により「投資有価証券」増加・年金資産運用好調により「退職給付に係る資産」増加

負債 | 負債計減少・「有利子負債」は返済済み減少

純資産 | 純資産増加・配当金前期末@40円、中間@40円実施・自己株式取得28億円・円安株高により「その他の包括利益累計額」増加

単位:億円・切捨	2023年3月期	2024年3月期	増減
流動資産	1,102	1,096	△6
固定資産	825	852	+27
有形	497	478	△19
無形	13	11	△2
投資	313	362	+48
資産	1,927	1,948	+20

	2023年3月期	2024年3月期	増減
流動負債	535	560	+25
固定負債	249	195	△53
負債	784	756	△27
有利子負債	309	252	△57
純資産	1,143	1,191	+48
負債・純資産	1,927	1,948	+20

	2023年3月期	2024年3月期	増減
DEレシオ	0.28	0.22	△0.06
自己資本比率	58.1%	59.9%	+1.8
1株当たり純資産額	6,060.11	6,804.81	+744.70
PBR	0.29	0.44	+0.15
ROA	1.7%	2.6%	+0.9
ROE	1.8%	3.2%	+1.4



連結キャッシュ・フロー計算書

営業CF | 税金等調整前当期純利益 + 53・減価償却費 + 51・運転資本(売掛債権・仕入債務・棚卸資産)△5

投資CF | 投資有価証券売却(政策保有株式) + 33・設備投資△44

財務CF | 長短借入金返済△55・配当金支払い△14・自己株式の取得△28

単位:億円・切捨	2023年3月期	2024年3月期	増減	増減率
営業CF	+30	+90	+60	+200.5%
投資CF	△21	△14	+7	△34.2%
財務CF	△38	△102	△63	+166.1%
現金及び現金同等物の 期末残高	231	214	△16	△7.3%
債務償還年数*1	10.3年	2.8年	△7.5年	
インタレスト・ カバレッジ・レシオ*2	10.3倍	32.4倍	+22.1	

*1 債務償還年数 = 有利子負債 ÷ 営業CF

*2 インタレスト・カバレッジ・レシオ = 営業CF ÷ 支払利息

2025年3月期 業績予想(連結損益計算書)

売上高 | 自動車向け好調、液晶パネル向け緩やかに回復、包装・建材向けは横ばい

営業利益 | 原材料価格高止まりも、販売価格の改定と販売数量の増加により増益

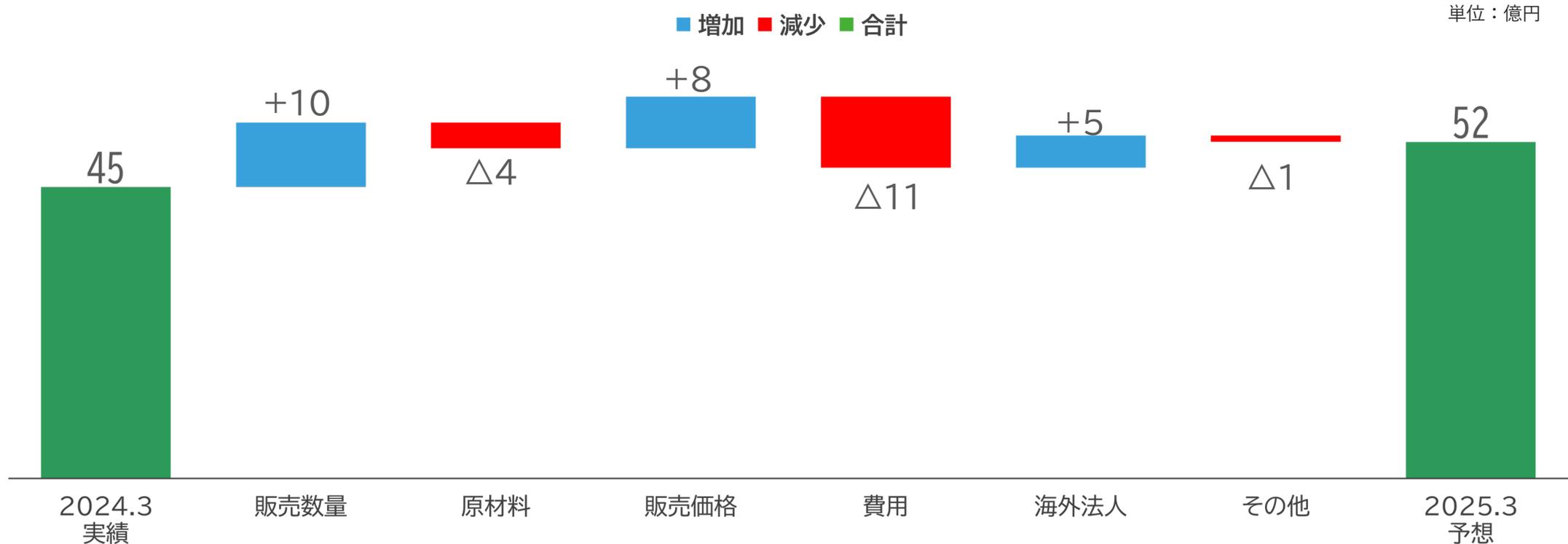
親会社株主に帰属する当期純利益 | 特別利益に川口製造事業所売却益77億円計上見込

単位:億円・切捨	2024年3月期実績	2025年3月期予想	増減	増減率
売上高	1,198	1,230	+31	+2.6%
営業利益	45	52	+6	+14.3%
経常利益	50	58	+7	+15.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	36	97	+60	+165.0%
EBITDA*	97	100	+2	+2.8%
1株当たり当期純利益	207.95円	565.38円	+357.43円	-
為替レート	\$143.34円 €156.74円	\$140.00円 €153.00円	3.34円 円高 3.74円 円高	
ナフサ価格	69,100円	67,000円	△2,100円	

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2025年3月期 業績予想(連結営業利益の増減要因)

- 販売数量 | 自動車向け好調、液晶パネル向け緩やかに回復
- 原材料・販売価格 | 原材料価格高止まり、販売価格の改定を進める
- 費用 | 坂東製造事業所への移転完了による合理化効果・労務費増加
- 海外法人 | インドネシア子会社のグラビアインキ、タイ・台湾子会社のコンパウンド・着色剤等増益見通し



2025年3月期 業績予想(セグメント別概況)

全セグメント共通

全セグメントとも販売数量の増加を見込むも労務費等増加により前期比小幅増益

G & P

坂東製造事業所移転完了による合理化効果により営業黒字化

売上高

単位:億円・切捨

	2024年3月期実績	2025年3月期予想	増減	増減率
カラー&ファンクショナルプロダクト(C&F)	655	678	+22	+3.5%
ポリマー&コーティングマテリアル(P&C)	239	244	+4	+2.1%
グラフィック&プリンティングマテリアル(G&P)	303	308	+4	+1.6%
売上高 計	1,198	1,230	+31	+2.6%

営業利益

カラー&ファンクショナルプロダクト(C&F)	24	24	△0	△2.2%
ポリマー&コーティングマテリアル(P&C)	26	27	+0	+1.5%
グラフィック&プリンティングマテリアル(G&P)	△5	1	+6	-
営業利益 計	45	52	+6	+14.3%



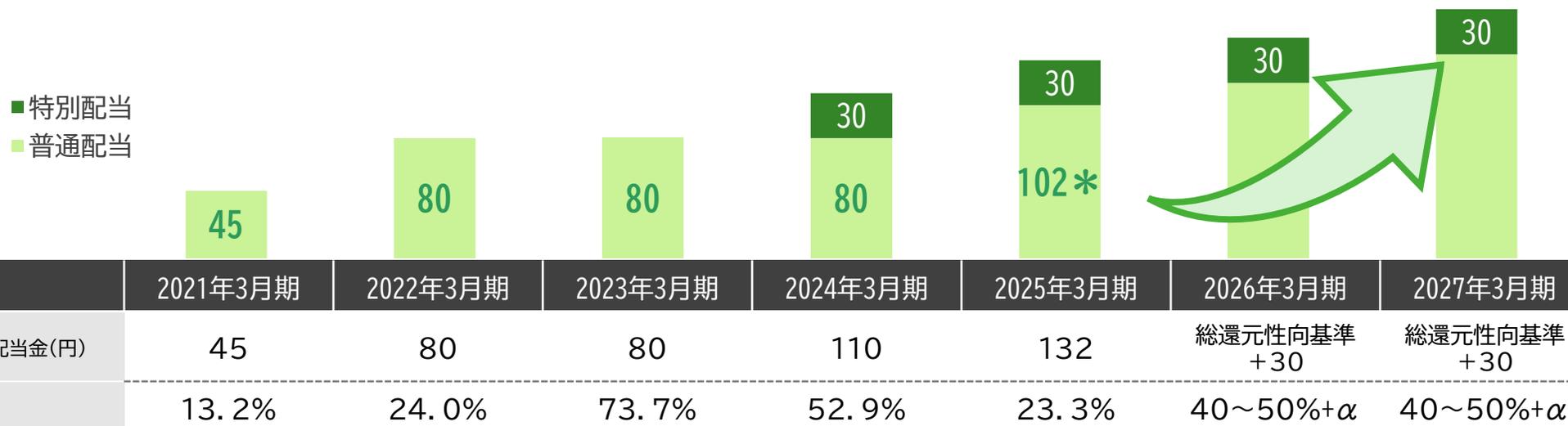
株主還元

配当政策

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、将来の事業展開、経営基盤の強化並びに内部留保の充実等の事項を総合的に勘案しつつ、株主各位への利益還元を重視した配当政策を継続的に実施することを基本方針としております。

配当方針

- **2024年3月期の期末配当金**
 - ・ 1株当たり70円(普通配当40円+特別配当30円) *1株当たり年間配当金110円(うち中間配当金40円)
 - ・ 「特別配当」に記載のとおり、特別配当として1株当たり30円を実施
- **2025年3月期以降の株主還元方針**
 - ・ 総還元性向40~50% もしくは 1株当たり年間配当金100円を下限とする普通配当を予定
 - ・ 2025年3月期については、当社川口製造事業所譲渡に伴う特別利益を普通配当の原資から除外
 - ・ 自己株式の取得を機動的に実施
- **特別配当**
 - ・ 当社川口製造事業所の譲渡に伴い、2025年3月期に特別利益として約77億円を計上予定
 - ・ 当該譲渡に伴う株主還元は、2024年3月期から2027年3月期の4期間にわたり、每期1株当たり30円の特別配当(総額20億円)として実施



* 2025年3月期の普通配当予想102円は、親会社株主に帰属する当期純利益予想から川口製造事業所売却益(法人税控除後)を控除した金額に対して配当性向40%相当額となります。

企業
理念

「人に興味を持とう」
「新しいことに興味を持とう」
「未来に興味を持とう」

会社名	大日精化工業株式会社 Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.
本社所在地	東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番6号
創業	1931年10月16日
代表者	代表取締役社長 高橋 弘二(たかはし こうじ)
資本金	100億39百万円(東京証券取引所 プライム市場)
従業員数	連結3,634名(2024年3月31日現在)
連結売上高	1,198億24百万円(2024年3月期)
グループ会社	国内10社 海外19社

1931年 創業

顔料の多くを輸入に頼っていたことを憂い顔料の国産化を目指して創業

創業者 高橋 義博



- コア技術
- ① 有機無機合成 顔料処理技術
 - ② 分散加工技術
 - ③ 樹脂合成技術

1938年 顔料生産開始



1940年代～ 顔料加工分野への進出

- 1944年 顔料の2次加工製品として、印刷インキ上市
- 1948年 塩化ビニル用着色剤「ビニルトナー」上市
- 1950年 塩ビ用グラビアインキを上市
- 1953年 合成繊維原液着色剤、捺染材料・着色剤 上市
- 1955年 各種樹脂用着色剤の開発上市

1960年代～ 海外進出の本格化

- 1962年 香港に営業拠点設立後、マニラ、ソウル、ニューヨークに開設
- 1968年 東海製造事業所開設
- 1974年 台湾に生産拠点設立
- 1984年 ミラノに営業拠点設立

非色彩分野への事業拡大

- 1967年 ウレタン樹脂事業参入、液状合成皮革用ポリウレタンを上市
- 1970年 食品包装フィルム用グラビアインキを開発上市
- 1975年 日本初のコンピュータカラーマッチングシステムを発表
- 1976年 紫外線硬化型コーティング剤事業参入
- 1977年 熱可塑性ウレタンエラストマーを上市



1980年代～ 海外生産拠点の強化

- 1988年 アメリカに生産拠点設立
- 1989年 タイに生産拠点設立
- 1995年 インドネシア、東莞に生産拠点設立
- 2003年 上海に複合生産拠点設立
- 2006年 ベトナムに生産拠点設立
- 2008年 インドに生産拠点設立

環境配慮型製品の開発

- 1980年 キナクリドン顔料を上市
- 1985年 シリコーン・ウレタン樹脂
- 1985年 天然物由来ポリマーキチン・キトサン
- 1986年 軟質硬質両用塩ビ用着色剤（CCMと連動）
- 1998年 ペットボトル用剥離脱色型グラビアインキ
- 1998年 非塩ビ用高濃度マスターバッチ

2000年代～ 新分野への展開と 基盤事業整備

- 2013年 メキシコに生産拠点設立
- 2015年 インドネシアの生産能力増強
- 2017年 インドの生産能力増強
- 2019年 佐倉製造事業所、アメリカ、タイの生産能力増強

環境配慮型製品の拡大

- 1998年 IJ分散体開発
- 2003年 CF用顔料本格販売
- 2005年 フィルム用水性フレキシインキ
- 2011年 CO2を原料にしたウレタン樹脂
- 2013年 バイオマスTPU
- 2016年 バイオマス・グラビアインキ
- 2018年 バリア性コーティング剤・接着剤
- 2021年 生分解性微粒子



- 2021年
- 坂東製造事業所
- 佐倉テクノロジーイノベーションセンター

(億円)
2,000

1,500

1,000

500

0

1940年度

1960年度

1980年度

2000年度

2020年度

創業

コア技術の確立

推進

拡大

深化



参考資料 当社事業セグメントと最終製品のイメージ

	Color & Functional Products	Polymer & Coating Materials	Graphic & Printing Materials
	顔料及び顔料の2次加工製品	合成樹脂及び特殊コーティング剤	パッケージ用及び広告出版用インキ
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> ● 顔料・カラーベース ● 繊維用着色剤・捺染剤 ● プラスチック用着色剤・機能剤 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウレタン樹脂 ● コーティング剤 ● 天然物高分子 	<ul style="list-style-type: none"> ● グラビアインキ ● フレキソインキ ● オフセットインキ
主な利用用途	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗料・印刷インキ ・ トナー・IJプリンタ用インキ ・ LCDカラーフィルタ ・ 建材・日用品・紙製品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合成皮革(家具、衣料) ・ 車両内装材・建材・日用品 ・ 電線・ケーブル・ベルト ・ 化粧品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品・日用品包装材 ・ 食品用トレー 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両・産業資材 ・ インテリアファブリック ・ アパレル製品 ・ 紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ LCDパネル ・ 加飾用フィルム ・ パソコン・事務機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲料ボトルラベル ・ 産業資材・建材 ・ ダンボール・包装材 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両 ・ 家電・日用品・アウトドア用品 ・ 産業資材・農業資材・建材 ・ 食品包装・トイレタリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化粧品 ・ 排水浄化・水処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告・書籍 ・ パッケージ 

B to B メーカーとして多様な業界に最適な製品を提供

Color & Functional Products | 顔料及び顔料の2次加工製品

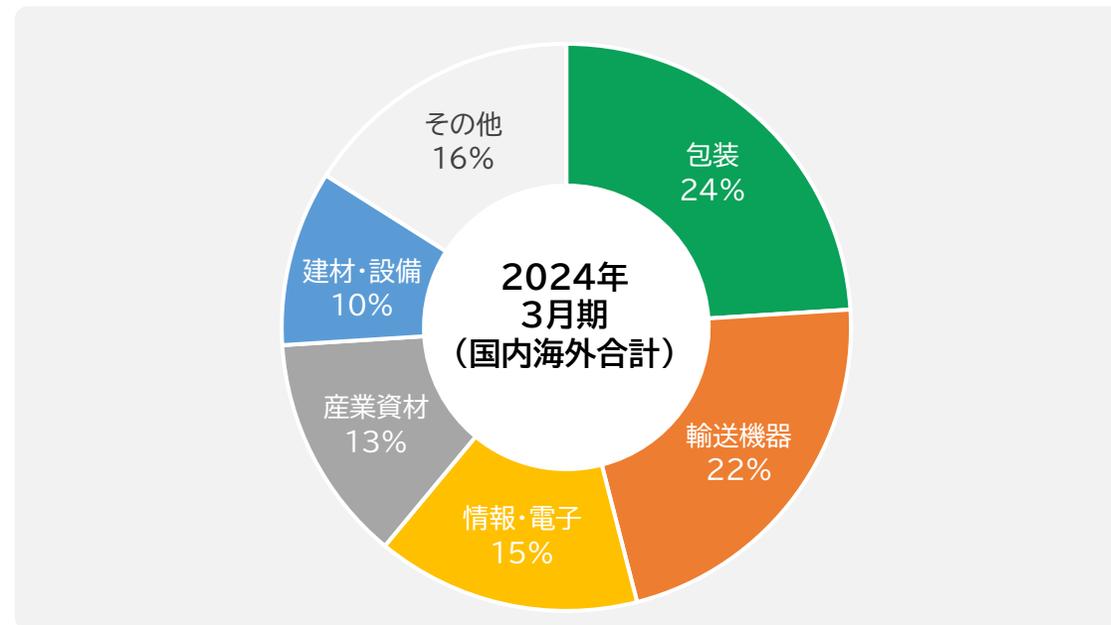
- 輸送機器
- 情報・電子
- 包装
- 産業資材
- 建材・設備

Polymer & Coating Materials | 合成樹脂及び特殊コーティング剤

- 輸送機器
- 情報・電子
- 衣料品・服飾品
- 産業資材
- 建材・設備

Graphic & Printing Materials | パッケージ用及び広告出版用インキ

- 包装
- 広告・出版



お取引先

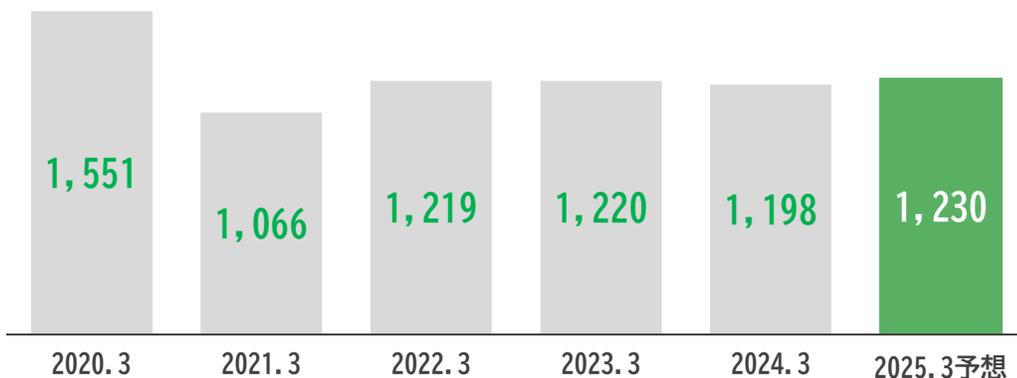
大日精化工業の製品を用いて、多様な最終製品に加工



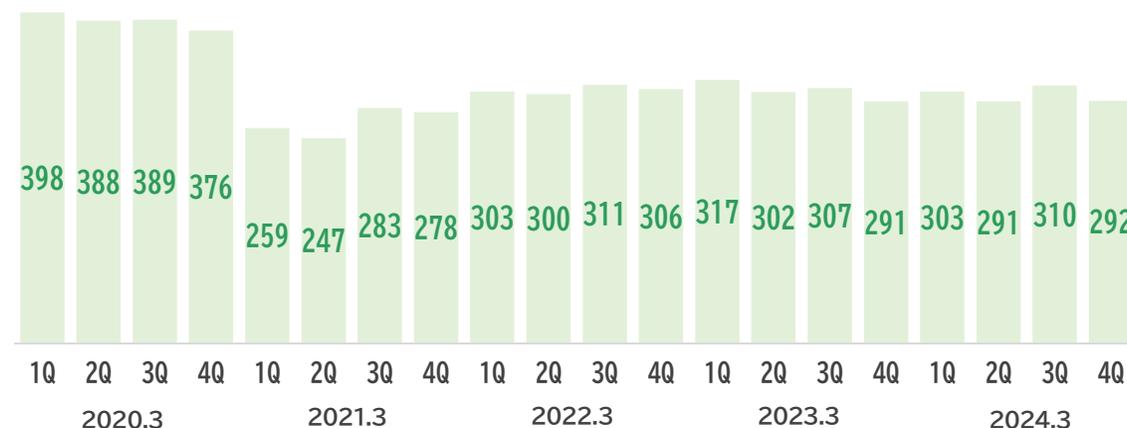


参考資料 業績推移(通期・四半期)

売上高・通期(単位:億円)

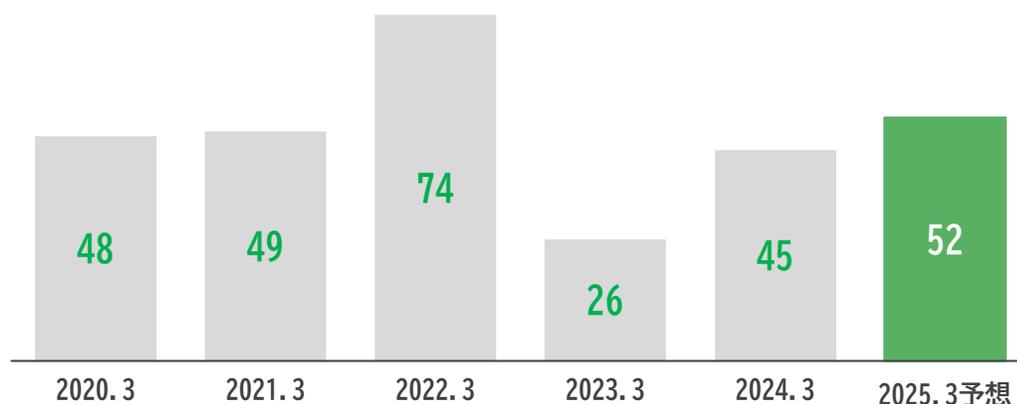


売上高・四半期(単位:億円)



※2021年3月期以降の通期及び四半期売上高は「収益認識に関する会計基準」を適用後の数値

営業利益・通期(単位:億円)



営業利益・四半期(単位:億円)

